

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①朝読書に取り組んだり、少人数などの指導形態を工夫したりして、引き続き基礎・基本の定着を目指す。②問題解決学習を通して、主体的に学びを創っていくようにする。③子どもたちが自分の思いや考えを表現する活動を多く取り入れ、主体的・対話的で深い学びを子どもたちと創っていくようにする。	①朝読書には、じっくり取り組む習慣が身に付いている。家庭学習とも連携して、基礎・基本の定着を図ることができた。②子どもたちが問題意識をもって主体的に学習を進めていけるようになってきている。引き続き大切にしていきたい。③算数科を軸として、自分の考えを表現できる活動を多く取り入れたことにより、自分の思いや考えを伝えられるようになってきている。引き続き、主体的・対話的で深い学びを目指していくようにする。	B
豊かな心	①たてわり活動の異学年による集団の中で、学年ごとの発達段階を子ども同士が理解し、思いやりのある関わりができるようにする。②一人ひとりが自己有用感をもって生活するために、異なる意見や立場を互いに尊重できるような指導の工夫をする。	①たてわり活動の異学年による集団の中で、相互の立場を理解して活動する姿が見られた。集団の中の関わりをさらに思いやりのあるものにするためには、異学年間のよりよい関わりモデルを示したり、あたたかい言葉かけの例を示したりすることが必要である。②日常生活のさまざまな場面で、自己有用感を得られるような指導を行ってきた。異なる意見や立場を尊重できるような集団を目指すには、小さな指導の積み重ねと、長いスパンでの実習の見取りが必要である。そのために、職員間で情報共有をしたり、よい指導のあり方を模索したりすることは今後の課題である。	B
健やかな体	①歯科健康診断の充実を図るとともに、体験して学びを実感できる学校保健委員会を企画し、歯・口の健康づくりを推進する。②体育学習や体いきいき週間など、運動に親しむ機会の充実を図り、体力向上に努める。③栄養職員と連携をとり、特別活動や家庭科の授業以外にも、日頃の給食の時間も活用して食育の充実を図る。	①虫歯も少なくしっかり活動をする事ができている。校医とも協力し、今後も活動を推進していきたい。②雨天で体いきいき週間の活動が延期することもあった。新体力テストの結果の活用も、体力の向上に努めたい。③日頃からの活動を充実させたい。さらさらランチの活用を進める。	B
児童生徒指導	①「とよおかスタンダード」を教諭、児童共に周知徹底する。全職員が共通に指導できるようにし、全児童が共通に認識、実行できるようにする。②児童指導委員会(校長、副校長、学年主任)を開き、児童指導に関する問題を把握する。問題を共有し、対策を練り、全職員が組織的に対応できるようにする。	①学年間や担任間で共通して指導できていない内容もあり、「とよおかスタンダード」の見直しが必要である。児童指導委員会の全体会を開き、全職員で共通認識をさらに深めたい。朝会等の時間を活用して、児童への指導ができること、②概ねできているが、より組織的に対応できるよう改善を図る。	B
地域連携・学校運営協議会	①開かれた学校を目指し、学校行事の内容等を分かりやすく発信すると共に、各学年の横浜の時間や、ふれあい給食をはじめとする行事において、地域の方々や連携し、よりよい教育活動を目指していく。②各地域の代表の方々や学校運営協議会の意義と役割を共有し、中期学校経営方針について分かりやすく伝え、ご意見をいただき、学校運営の改善をしていく。	①学校HPを通して、学校行事の内容等をもう少し詳しく発信していきたい。横浜の時間では、まじのかかわりを充実させていきたい。②学校運営協議会は、初年度であったが、ご意見をいただき学校運営の改善に生かすことができた。来年度は、さらに充実させていきたい。	B
特別支援教育	①一般学級と個別支援学級の連携強化に向けて、担任間の情報交換・打ち合わせを日常的に行う。②「ひらかれた個別支援学級」を目指し、一般学級の担任が個別支援学級の実態を知る機会を設け、ユニバーサルデザイン教育について理解する。	①日常的に授業終わりの放課後などに情報交換を行った。また、家庭訪問や個人面談にも情報共有し、担任間との連携に努めたが、学年との情報共有や配布物の確認など、きめ細やかな連携を更に取れるように努めた。②重点研授業を一般級担任にも見てもらい、個別支援級に在籍児童の理解につなげることができた。一人ひとりの個に応じた対応を見ることができ、一般級でも活用できるように発信していく。	B
いじめへの対応	①1月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を定期的に開催し、再発防止に努める。②いじめの定義や対応、いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。	①いじめ防止対策委員会の定例会で、各学年から進捗状況報告を行い、認知した案件が解消するように対応方針を協議し、再発防止に努めた。②いじめ防止研修等を実施し、アンケートや教育相談により児童の些細な変化を把握しようとした。また複数の職員でアンケートや教育相談の内容を共有するようにしたこと、より早期にいじめを発見できるように努めた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①授業実践のための教育環境整備や安全対策、児童理解等、メンターチーム(本校初任校者)を組織し、人材育成を図る。②コーディネーター役(10年次研修対象者)が中心となりメンターチームを対象とした研修(各教科主任による示範授業の参観や実技研修、メンターチーム同士が授業を見合う研究等)を計画的に行っていく。③グループウェア等を活用して、情報の共有化を図るとともに、「電子申請システム」を活用し事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革につなげる。	①授業を伴う研究会や実技研修等、メンターチームで自主的に研究を進めることができた。メンターチームを組織として位置づける必要がある。②コーディネーター役が中心となり研修を行ったが、年間計画を立てる等より計画的に行っていく。③グループウェアの活用については、初年度であったが、次第に慣れてきた。来年度も引き続き、活用していく。	B
ブロック内評価後の気付き	鶴見中学校ブロックで児童生徒理解や授業研究会を行い、児童生徒理解、教科・領域における情報交換を積極的に行うことができた。授業研究会では、9年間で育成を目指す資質・能力と照らし合わせ、学習指導における小中の連続性を図りながら、授業改善を小中一貫カリキュラムの改善につなげ、小中一貫教育を推進していくことができた。領域における研究会では、3校で共通して取り組める具体を探ることができた。中一ギャップが生じないよう、児童の参観授業や部活動体験、中学生から児童へのオリエンテーションなどを積極的に行った。また、教育相談を入念に行い、入学後の生徒の動向に細かく気を配った。		
学校関係者評価	児童及び保護者アンケートの結果については、どの質問項目においても「とてもそう思う」「そう思う」を合わせると、80%を超えている回答がほとんどなのでほっとしている。地域行事への参加率が減っていることや進んで挨拶することに課題がある。学校・家庭・地域が今後も繰り返し、積極的な積み重ねをしていきたいと考える。児童指導に関しては、全職員が校長の方針を理解し、共通した指導ができるように進めていってほしい。		

中期取組目標振り返り	令和元年度「中期学校経営計画」の振り返りに基づき、全職員が学校経営に積極的に参画して、PDCAサイクルを生かし常に改善する仕組みを構築した。重点取組の内容を元に職員を構成し、具体的な取組内容の検討、自己評価ならびに総括をし、特に3学期制の実施に伴う具体的な取組につなげることができた。全体で共有するため、部会から全体会の段階を踏むことで効果的だったと考えられる。また、既存の児童・保護者に向けたアンケートも見直し、重点取組との連動性、質問項目の焦点化などを考慮した。今年度出た要望や課題を真摯に受け止めて、次年度の経営に生かしていきたい。
------------	---

重点取組分野	令和2年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①T.Tなど指導形態を工夫して、引き続き基礎・基本の定着を目指す。②問題解決学習を通して、主体的に学びを創っていくようにする。③子どもたちが自分の思いや考えを表現する活動を多く取り入れ、主体的・対話的で深い学びを子どもたちと創っていくようにする。		
豊かな心	①たてわり活動の異学年による集団の中で、学年ごとの発達段階を子ども同士が理解し、思いやりのある関わりができるようにする。②一人ひとりが自己有用感をもって生活するために、異なる意見や立場を互いに尊重できるような指導のあり方を共有し、指導に生かす。		
健やかな体	①歯科健康診断の充実を図るとともに、体験して学びを実感できる学校保健委員会を企画し、歯・口の健康づくりを推進する。②運動に親しむ機会の充実を図り、体育学習や体いきいき週間など、新体力テストを活用し、体力向上に努める。③栄養職員と連携をとり、日頃の給食の時間も活用して食育の充実を図る。		
児童生徒指導	①「とよおかスタンダード」を全職員で見直しを設定する。共通に指導できるように話し合いの場を定期的に設定する。朝会等を活用して、全体指導の場を設け、全児童が共通に認識、実行できるようにする。②児童指導委員会を開き、児童指導に関する問題を把握する。問題を共有し、対策を練り、専任と連携し、全職員が組織的に対応できるようにする。		
地域連携・学校運営協議会	①開かれた学校を目指し、学校行事の内容等を分かりやすく発信する。その際、情報発信の組織を位置づけ、計画的に発信できるようにする。②各地域の代表の方々や学校運営協議会の意義と役割を共有し、中期学校経営方針について分かりやすく伝え、ご意見をいただき、学校運営の改善をしていく。また、地域学校協働活動本部との連携を図る。		
特別支援教育	①校内研修や配慮を要する児童の情報交換、コンサルテーションを通して、個に応じた支援が必要な児童への理解を職員間で共有して、日頃の指導に生かしていく。また、個別的教育支援計画・指導計画を作成し、それに基づいた支援を行う。②個別支援級と交流学級間で交流の目的や個に応じた適切な学習内容について連携を図り、支援を行う。③YPAセッションから個の状態や学級の実態を見取り、支援が必要な児童を把握し、日頃の指導に活かす。		
いじめへの対応	①引き続きいじめ防止対策委員会で、認知したいじめ案件をしっかりと管理し、組織的に解消へ向かわせる。また、未然防止のための学年風土づくりについて話題化し、学年に応じた具体的な取組を考える。②いじめ防止等の研修を充実させ、全教職員のいじめに対する意識を高め、未然防止に努める。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチーム(本校初任校者)を学校運営組織に位置づけ、人材育成を図る。②コーディネーター役(10年次研修対象者)が中心となりメンターチームを対象とした研修(各教科主任による示範授業の参観や実技研修、メンターチーム同士が授業を見合う研究等)を年間を通して計画的に行っていく。③グループウェア等を活用して、情報の共有化を図るとともに、「電子申請システム」を活用し事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革につなげる。		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--

重点取組分野	令和3年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
児童生徒指導	c4		
地域連携・学校運営協議会	c5		
特別支援教育	c6		
いじめへの対応	c7		
	c8		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c9		
ブロック内評価後の気付き	c10		
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--